

演題、内容抄録（午前）

「20年先を見据えた歯科医療のイノベーションを考える」

-真の患者利益、真の歯科医療の価値を実現するために-

21世紀に入ってから科学技術のイノベーション（革新）は目を見張るものがあり、例えば1990年代には大型の携帯電話が特定の人にもみ使用されていましたが、2000-2010年代に入ると携帯業界にもイノベーションが起こり誰もが手のひらサイズの多機能携帯を保有するようになりました。自動車業界では水素で動く自動車や自動運転機能が備わった車が登場し、IT環境もIBM汎用機から、持ち運び可能な超高性能タブレットへと進化を遂げています。以上のようにイノベーションというと劇的な技術的革新を連想しがちですが、既存のものに対する考え方や視点を変えることで凄まじい力を生み出すイノベーションも存在します。

Facebookなどが良い例で、本来個人間のやりとりを主目的とするソーシャルネットワーキングサービスとして開発されましたが、「アラブの春」と言われる一連の中東における民主化運動では、厳格な言論統制の中クーデターの貴重な連絡網として用いられ民主化の第一歩を演出しました。このようにものの見方を変えるだけで凄まじいエネルギーを生み出すのが「洞察力と融合」したイノベーションでしょう。

一方、現代の歯科界におけるイノベーションとは何でしょうか？治療においてはデンタルインプラント、デジタル歯科学、歯科用マイクロスコープなど最新の技術が導入されていますが、我々国民の口腔健康が根本的に改善されているとは思えません。国内外のデータが示すように本来口腔内の疾患が重度に進行している人の割合は少なく、医療の本質がいかにか患者の口腔健康状態を長期間維持し、疾病を予防していくかという視点に立てば、残りの多くの人々にとって健康利益をもたらす歯科医療こそが歯科界のイノベーションなのではないでしょうか。例えばその1つの可能性が定期メンテナンスです。ただここでいう定期メンテナンスは狭義の「定期的な口腔衛生指導やバイオフィルムの破壊と除去」のみではなく、患者の全身健康管理にまで積極的な関わりができる広義の医療メンテナンス通院を意味します。全ての患者は同じでないという前提に立ち、我々はオーダーメイド医療の時代にいてプロフェッショナルな歯科医療従事者としてその先に行く機会を得ています。本講演では、どのような医療スタイルが今後創造できるかを歯科先進国の医療スタイル、日本における医療を取り巻く社会情勢をふまえてお話致します。

演題、内容抄録（午後）

近代歯周病学において、私たちは何を考え、何を計画し、何を実行すべきなのか？

-歯周炎に対する包括的アプローチ-

「歯周病へのアプローチ」と聞くと私たち臨床家はつつい治療のこののみを考える傾向にあります。ところが歯周病学の成書を開いてみると治療に関して取り上げているページ数は思いのほか少ないことがわかります。地域に根ざした歯科医院が来院患者の口腔健康を一生涯維持しなければならないという視点に立てば、目の前の一時的な治療の成功以上に歯周病という病態を理解し、表面化している症状以外の事を深く理解する事が求められます。本講演では歯科医師・歯科衛生士が実臨床に生かすために知っておくべき病因論と、それをどのように臨床導入しているかのトータルマネジメント、そしてそこに歯周病専門医がどのように関わっているのかを、症例を通じてお話しさせていただきたいと思います。

肩書き、略歴

つきやま てっぺい

築山 鉄平

医療法人社団 雄之会 つきやま歯科医院 勤務

タフツ大学歯学部歯周病学講座 非常勤講師

略歴：

2001年 九州大学歯学部 卒業

2001～2004年 佐賀医科大学（現佐賀大学医学部）歯科口腔外科 勤務

2004～2006年 東京都中央区日本橋 矢澤歯科医院 勤務

2006～2009年 タフツ大学歯学部歯周科 post-graduate program 修了
最優秀臨床賞（Certificate of excellence）受賞

2009年 米国歯周病学会歯周ボード認定医 取得
（Diplomate, American Board of Periodontology）

2010年 米国歯科修士取得（Master of Science）

2009～2010年 タフツ大学歯学部審美補綴 フェロー

2010年～ ITI (International Team for Implantology) Language Reviewer

2013年～ 福岡歯科大学予防学講座 非常勤講師

2014年～ タフツ大学歯周病学講座 非常勤講師

2011年～ 医療法人雄之会 つきやま歯科医院 勤務

顔写真

